

はっぴーえんどをむかえたら

F「こんにちはーF ですよ」

T「T ですよ!」

F「二人合わせて YA です!……ってどこがやー!」

T「……」

F「え! ちょっとひかないでよう」

T「恥ずかしいので知らなかったことにしてください」

F「ひどい……さ! マンザイ……でなくて対談を始めましょう」

T「(マンザイって言った)えっと、今回はハッピーエンドとバッドエンドがテーマでしたよね。

物語の結末を知ってから読む人がいるらしいということから決めたテーマでした」

F「そうそう。本の帯とかあらすじとかでも“どんでん返し”が待っている!”とかあおったりして
るけれど、あれって一種のネタばらしだね。自分からハードルあげてるっていうか」

T「それでもけっこうおもしろかったり、おどろかされたりするんでしょうか」

F「中山七里さんは、どんでん返しの帝王って呼ばれてるんだけどね。意外な犯人という手がかりだけで犯人を当てようと思いつつ読むけど、やっぱり裏切られるよ～。トリックとか全然考慮せず、“意外”というキーワードだけで推理するっていう……」

T「それでも犯人がわからないってすごいですね」

F「ちょっとずるくらい」

T「中高生のハッピーエンドってたとえばどういうことがあるんでしょう。部活動の大会で勝つとかでしょうか?」

F「T さんは部活動の大会あった?」

T「大会はなかったのですが、文化祭に向けて 3 年生全員でシンデレラのドレスと王子様の衣装を作りました。最後は着て写真も撮りましたよ」

F「ドレス! しかもシンデレラってハッピーエンドじゃん! すごい!

……ドレスって作れるもののなの?」

T「パーツごとに作って最後に組み合わせる感じですね」

F「さざっと言ってるけど……すごい高度なことだね。あと、やっぱりハッピーエンドとい
えば、夢を叶えるってことじゃない?」

T「ということは、わたしたちは今、ハッピーエンドを迎えたあとにいるってことですね!」

F「たしかに……! じゃあわたしたちは幸せな、はず!」

T「そこはやはり言い切らなくてはならないのでは」

F&T「わたしたちは、幸せです!」

F「……ってこれ何宣言?」



←QR コードでも
アクセスできます

Instagram公開中 ここにアクセスしてね★

<https://www.instagram.com/hondarake55>

ホンダラケ

2026.8.1

めでたしでめでたし

F「今回は、ハッピーエンドの本とバッドエンドの本の特集です♪」

T「めでたし?」

F「ほら、ハッピーエンドの反対だし」

T「……(バッドエンドとは……)」

『この世は生きる価値がある』

長谷川まりる/著 ポプラ社 2025 年刊



F/ハセ

超D直球なタイトルが目を引く 1 冊。人間を知らない魂が中学 2 年生の体に入り、1 年間だけ生活することになります。最初は声を出すこと、おやつを食べることなど、やることなすことなんでも楽しいと感じていた魂。ところが、クラスメイトと交流するうち「楽しい」だけではいられないことも出てきて……。たしかに、人と人との間で生きるって楽しいことばかりじゃありません。それでも、そういうことぜんぶひっくるめて生きる「価値」を見出せるようなラストシーンにぐっときます。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館の YA (ヤングアダルト) コーナーでご覧いただけます。

2 か月に 1 度、年 6 回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YA コーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「観光」

本でならどこへでも行けますね♪ さあ、どこへ行こうかな。

『舞台』

西加奈子/著 講談社 2014 年刊



F/ニシ

ニューヨークに一人旅に来た葉太は滞在初日から盗難に遭い、手元にあるのはなけなしの 12 ドル。虚栄心と羞恥心に縛られた葉太は助けを求めることすらできずニューヨークを一人で彷徨うことになってしまい……本を読み進めるにつれて葉太の人間性や過去が分かって行く。クスツと笑えてこれから観光に行かない人にも読んでほしい 1 冊です。

P.N. 谷知(中学 1 年生)

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

『おとぎ話はなぜ残酷で ハッピーエンドなのか』

ウェルズ恵子/著
岩波書店
2024 年刊

『白雪姫』や『美女と野獣』など多くの人が知っているおとぎ話。たしかに主人公はみな何か困難を乗り越えて「めでたしめでたし」にたどり着きます。今まで気にしたことなかったけれど、それってどうしてなんだろう？ おとぎ話のエッセンスは現代の漫画やアニメ作品などにも生きています。おとぎ話の「実は……」な魅力に改めて触れてみませんか。



388.3/24

新着図書 Pick Up

『キャンパスのあやつり人形たち』

張之路/著 高野素子/訳 樹立社 2026年刊

キャンパスの
あやつり人形たち



923/ジャ

事故にあったときに助けてくれた恩人に再び会うため夢九学園高校に入学したサン・ウェイ。めでたく再会!とはいかず、彼は出会った 1 年前とは名前や人格が変わってしまっていて、サン・ウェイのことも知らないと言います。そうなったのは、体にチップを埋め込まれコンピューターで操られているからで……彼女たちが立ち向かうのは科学技術の悪用という闇で、悲劇も起こってしまう物語。そのなかで、ひとりひとりを尊重する大切さや友達を救おうとする勇気や友情が描かれています。どんどん発展していく科学技術との向き合いかた、使いかたを考えさせられる 1 冊です。

難しいと思われているけれど、実は面白い
名作があるから読んでみてほしいんです。

『小公子』

フランシス・ホジソン・バーネット/著
川端康成/訳 新潮文庫 2020 年刊

アメリカで母と 2 人暮らしの少年・セドリックは、ある日突然伯爵である祖父の跡継ぎになるため、イギリスへ行くことに。待っていたのは家族を顧みない意地悪で頑固な祖父でした。けれど、母を大切に思い、困っている人を助けようとする見返りを求めない純粋な優しさを持つセドリックの姿に祖父の心は動かされていきます。「侯爵と跡継ぎ」という堅苦しい感じではなく、「おじいちゃんと孫」感じっぱいのやりとりも可愛くて魅力的。人を疑わず、まっすぐな心を持つ少年の優しさあふれるハッピーエンドな物語です。



933/バネ